

遠州灘海浜公園（篠原地区）基本計画の策定

1 公園基本構想

別添1

平成28年に策定した遠州灘海浜公園基本構想において、県は篠原地区を「防災・スポーツエリア」と位置づけ、導入が望ましい公園施設として野球場、屋内運動場等を抽出した。

2 公園基本計画

別添2

平成30年度からは公園基本計画の策定に着手し、令和元年度には、本公園に整備するスポーツ・レクリエーション施設や、緑地・広場などの在り方について県民の意見を伺い、3つのコンセプトに基づく公園の配置計画と規模・構造の異なる4タイプの野球場計画からなる公園の配置計画に関する比較検討プラン原案を作成し、改めて県民の意見を伺った。

3 施設整備計画の総点検

令和2年度は基本計画を取りまとめる予定であったが、新型コロナの影響（大幅な財源不足の恐れ、社会経済状況や県民の意識の変化）を受けて、施設整備計画の総点検^①を実施することとなった。10月に、総点検に基づく見直しの方向性^②を公表したが、見直し作業に時間を要することから、基本計画の策定期を令和3年度以降へ延期した。

① 総点検の結果

(1) 野球場

区分	現時点における取組方針	見直しの方向性	考え方
計画等	基本構想 (H28.5)	取組方針どおり	公園整備の必要性に変化なし
	基本計画策定業務 (H31.3～) ・比較検討プラン原案 (R2.2)	比較検討プラン原案を見直し、県民等の意見聴取を行う	新型コロナの影響により、施設整備の在り方や県民意識が変化
	県民意見の聴取 (R1.7～10) 県議会 (各定例会)		
必要性	西部地区に県営野球場なし	取組方針どおり	基本構想策定時から状況に変化なし
機能	プロ及びアマチュア野球に幅広く対応した野球場	アフターコロナに対応した「次世代型野球場」への見直し	野球の観戦方法等の変化に対応した機能・規模・整備運営手法を再検討
規模	野球場の収容人数 2.2万人(草薙球場並)又は1.3万人(愛鷹球場並)		
整備・運営手法	今後検討		
財源	国庫・県債を活用	国庫・県債に加え、民間資金の活用も検討	官民連携による自治体負担なしの事例あり
スケジュール	基本計画策定 (令和2年度内)	基本計画策定を令和3年度以降へ延期	社会全体のアフターコロナ対応に時間が必要

(2) 公園全体

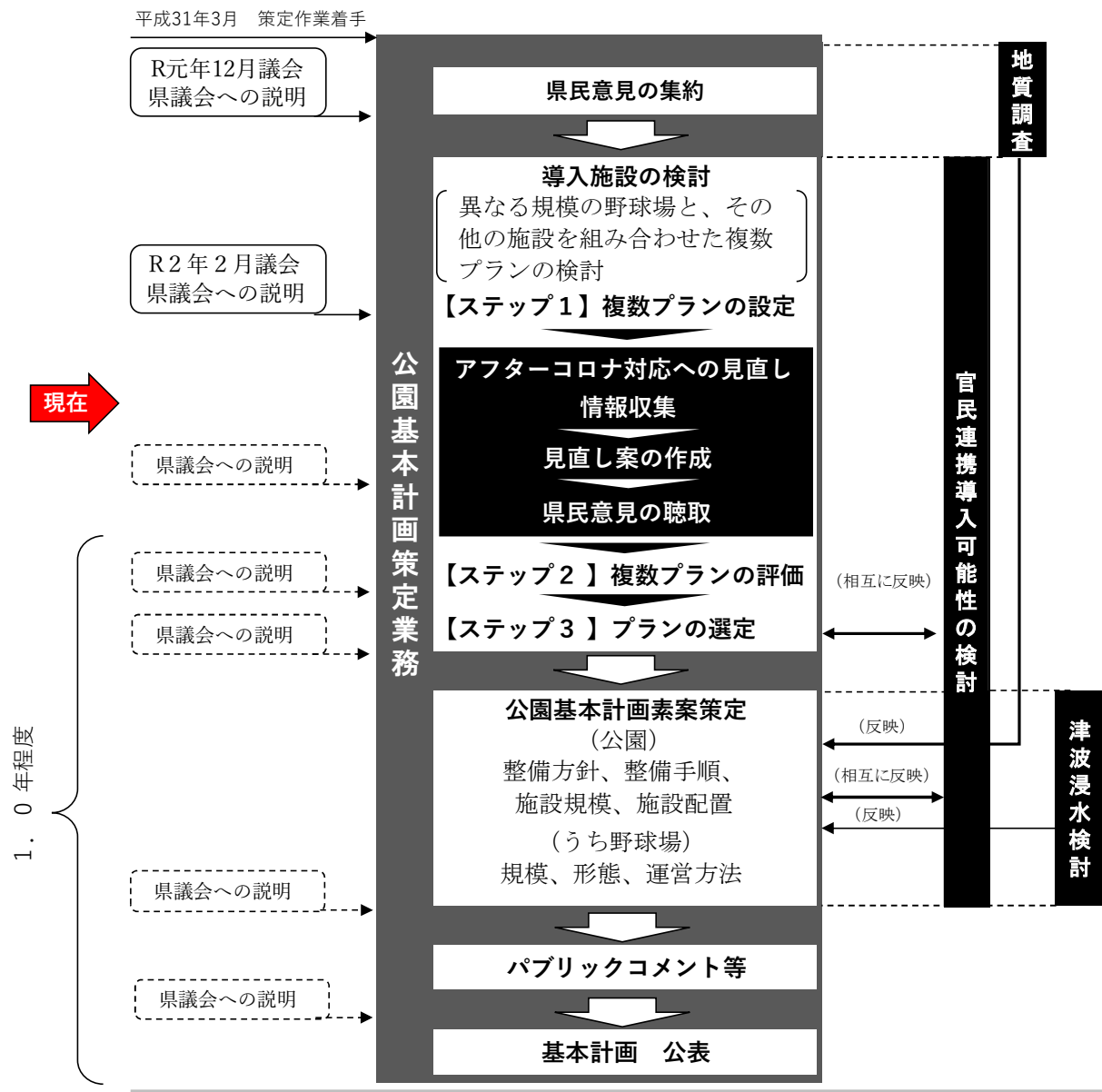
進め方	整備手順未定	野球場の先行整備を基本とする段階的な公園整備を検討	地元要望への対応
-----	--------	---------------------------	----------

② 見直しの方向性

- ・ アフターコロナに対応した施設とするため、「公園の配置計画に関する比較検討プラン原案」を見直す
- ・ 見直し案を作成した時点で、県民意見等を再聴取する
- ・ 野球場の先行整備を基本として、段階的に公園整備を行う

4 今後の進め方

見直しの方向性を踏まえ、アフターコロナに対応した基本計画を策定していく。



・ 浜松市との役割分担及び整備手順に関する調整
(・ 官民連携導入に向けた検討)
・ 事業認可取得に向けた国との調整

1.0 ~ 1.5年

基本設計

1.5 ~ 2.0年

実施設計

用地買収

3.0 ~ 4.0年

工事